

4 年	単元名	だれもが関わり合えるように アメリカや日本のユニバーサルデザイン	4 時間
単元の目標	◎関心のあることなどから話題を決め、必要なことを調べて要点をメモすることができる。 ◎相手や目的に応じ、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、話し方の工夫を考えて話すことができる。 ○話の中心に気をつけて聞き、質問をしたり感想を述べたりすることができる。		
日本語の目標	○発表するのに効果的な表現や話し始めの興味を引くための表現を知る。 「～を調べました。」「～ということが分かりました。」「～と思いました。」「考えました。」「～したいです。」 「～を聞いたことがありますか。」「～を知っていますか。」 など		
学習課題	伝えたいことがはっきりわかるような発表原稿を書こう。		
主な学習活動	① だれもが関わり合うことについて体験したり、写真等を見たりして、調べる事柄を決める。 ② 文章の組み立てを考える。 ③ 発表の原稿を書く。 ④ 効果的な発表の仕方を考えて練習する。 ⑤ クラスで発表したり、友達の意見を聞いて感想や意見を述べたりすることができる。 ⑥ 他の補習校や日本の学校の友達に伝える。		

学習活動計画

時限	内容	活動	ポイント
1	学習課題をつかむ	＜めあて＞ 身の回りの「だれもが関わり合えるように」なされている工夫について知り、自分なりの課題を決める。 ①教科書 114 ページの写真や身の回りのだれもが関わり合える工夫をしているものの写真を見る。 ・信号 ・盲導犬 ・スロープ ・手話のニュース など ②教室の各コーナーにステーションを設置して体験活動をする。 ・アイマスクをして疑似体験をする（折り紙） ・点字を体験する（本や資料を実際に触ってみたり、点字で自分の名前を書き表す） ・英語や日本語の手話を体験する。 ③体験後に、その感想やほかにも身の回りの生活の中での工夫があるかどうかを発表する。 ・お年寄り、子ども、妊婦のための工夫 ・ユニバーサルデザイン ④体験や友達の発表などから自分の課題を決め、ワークシートに書き込む。	・自分の生活と比べたり、体験をすることによって、身の回りの「だれもが関わり合えるように」なされている工夫等に気づき、自分なりの課題を決めるように促す。 ・点字や手話は言語によって異なることを実感できるように、英語と日本語の点字に触れる。 ・図書館から関連図書を借りて展示しておく。（英語と日本語） ・お年寄りや妊婦、小さい子供などが関わり合えるような工夫があることに触れる。 ・自分の課題持ちやすくするため学習したことを白板上で WEB 図にまとめる。
	家庭学習課題	自分の課題について調べ、短い言葉や文でカードに書く。調べる際に、発表のことを考え、説明をわかりやすくするための写真や絵、図などがあると効果的なことを知る。	調べる際に、絵や写真などをいっしょに集めるように促す。
2 3	中心を決め、構成を考え、記述する。	＜めあて＞ 調べてきたことを整理して、自分が一番伝えたいことを決め、発表原稿の構成メモを仕上げる。 ・教科書の例文をもとに文章の構成を学ぶ。 ・宿題のカードを整理して、中心となる事柄を決める。 ・ワークシート上に、メモを並べ、構成メモを仕上げる。 ・構成メモをもとに、発表原稿を書く。	・はじめ、中、終わり、のそれぞれに具体的に何が書いてあるかを教科書の例文で学ぶ。 ・メモの羅列にならないよう、文末に使うと効果的な言葉の表を掲示したり、ワークシートにも例として記述する。
	家庭学習課題	原稿を仕上げて、発表練習をする。発表の内容をうまく伝えるための絵や写真などの資料の効果的な見せ方についても考える。	家庭で練習する際に、保護者に励ましの言葉や感想を書いてもらう。
4	発表	＜めあて＞ 伝えたいことがはっきりわかるように発表をしたり、友達の発表の良いところを見つける。 （話し手）視線、声の大きさ、読む速さなどに気を付けて発表する。 （聞き手）話し手の伝えたいことは何かを聞き取ったり、発表の良い点を見つける。	二人ペアで 2 回、その後 3～4 人のグループで発表することで、回を追うごとに、前の発表の反省を生かしたり、友達の発表の良いところを自分の発表にも取り入れたり、人前で抵抗なく発表できるようにする。